

留学体験記

オハイオ・ノーザン大学での留学生活

JSAF 2024 年秋派遣 最終留学レポートより

とても田舎で、派手に楽しめるような場所はありませんでしたが、今までの人生の中でも一番とっていいほど楽しい留学生活でした。

派遣先大学	オハイオ・ノーザン大学(Ohio Northern University／アメリカ・オハイオ州)
在籍大学	成蹊大学 経営学部 総合経営学科 3年(留学開始時2年)
留学形態	認定留学
派遣期間	2024 年秋派遣

※本体験記は派遣生の最終留学レポートをもとに再構成したものです。

1. 留学の目的と達成

留学の目的は、語学力の向上、国際的なネットワークを広げること、そして新しい文化を学ぶことでした。この目的は達成できたと感じています。

出発前のイメージと変わった点としては、「アメリカの田舎はとても安全だ」ということがわかったことです。キャンパス内の治安はとても良く、窃盗の話はめったに聞きません。キャンパス外も危険な人はおらず、町の人たちもとても優しいです。

2. 授業と学び

■ 履修科目

今学期は次の 6 科目(各 3 単位)を履修しました。

科目(コース番号)	単位	成績	内容と感想
TREX for Business(BIZ 2401)	3	A	レクチャーとグループディスカッション形式。ビジネスに関する基本を幅広く学びました。評価は期末試験 1 つのみ。教授が予告なしに名指しで予習確認のクイズを出すので少しドキドキしましたが、教授との距離がとても近くなり、授業はとても楽しかったです。セメスター後には食事に連れて行ってもらえるほど仲良くなりました。
Personal Finance(FINC 2101.01)	3	B	セミナー形式。ポートフォリオの作り方や株の比較方法など、個人ファイナンスの基本を一通り学べます。評価は出席参加 15%・宿題 15%・試験 50%・ファイナンシャルプラン課題 20%。財務会計は初めてだったため全てが新鮮で難しく、数学が苦手なこともあり、株や資産の計算の理解に時間がかかりました。
Information Systems(BIZ 2401.02)	3	A	セミナー形式。試験はなく、チーム課題 5 つ・アプリケーション課題 15 個・リーディングジャーナル 10 個・出席参加で評価され、ほとんど全ての課題で満点でした。ビジネスにおける IT の活用方法(人口統計や組織の課題調査の方法など)を学びました。州や大学のある町エイダに関する調査が主で、土地勘がなく情報収集に時間がかかりましたが、パソコンを使うのが好きなのでとても楽しかったです。
Principle of Entrepreneurship(ABUS 2221.03)	3	A	セミナー形式。評価は参加 14%・個人課題 22%・グループ課題 25%・試験 15%(3 回)・ピッチコンテスト 17%。新しい製品を考えて実際にビジネスマンに発表するという内容が新鮮で興味深かったです。チームメンバーの半分が話し合いにあまり参加してくれず、コンテストぎりぎりまで準備に追われるなど苦労もありました。
Presentational Speaking (BIZ 1201.03)	3	B	セミナー形式。ケーススタディの方法のほか、ビジネスの現場での倫理的判断や、リーダーシップとマネジメントの違いなどを学びました。毎回必ず一度は挙手して発言しなければならず、手書きの事前課題もあるため授業外の時間も必要でしたが、おかげで他の授業でも手を挙げて発言できるようになりました。
Psychology(PSYC 1001.02)	3	C	セミナー形式。心理学の基礎に加え、脳の部位名や目の構造など生物学的な側面にも触れます。心理学は初めてで全てが新しいことだらけでした。試験が難しく成績は振るいませんでしたが、授業自体はとても楽しく、退屈せずに参加できました。

※成績はレポート提出時点で本人が記載した「これまでの成績」です。

■ 特にながらった課題

エッセイ(Ethical Leadership/Leadership Memo) 自分が今まで生きてきた中でリーダーシップを発揮した経験について書く課題です。いわゆる「ガクチカ」を英語で書くのとはほとんど同じなのでとても時間がかかり、決められた書き方の方式を間違えないようにするのも一苦労でした。

プレゼンテーション(Principle of Entrepreneurship/Pitch Contest) 自分で考えた商品をビジネスに紹介し、売り込む課題です。実際のビジネスの現場でも使えるようなビジネス英語を使う必要があり、準備にとっても時間がかかった上、発表では緊張して手が震えるほどでした。

■ 日本の授業と違う点

こちらでは 100 人以上の大人数授業はほとんどなく、多くても 30 人程度です。そのため一人ひとりと教授との距離が近く、心強いです。また、授業内での学生の発言を重視する教授がほとんどなので、どの授業もとても賑やかです。

3. 英語力の伸びと工夫

毎日英語で授業を受け、友達とも英語で会話し、連絡も全て英語なので、必然的に英語力は向上しました。現地の友人にも「英語が上手になったね」とよく言われます。もともと日常会話は問題なくできる程度の力にはありましたが、留学を通して、ビジネスで使えるようなフォーマルな英語を身につけることができました。語学力上達のためには、なるべく AI を使わずに課題に取り組むようにしていました。

スキル	苦労した点	工夫した点
リスニング	授業内で専門的な用語が出てきた時は少し大変でした。	事前に調べたり、マーキングしておいて後から調べたりしていました。
リーディング	教科書はたまに英語の量が多すぎると感じる時があります。	地道にしっかり読んでいくしかありません。
ライティング	2～3 枚のレポートを書くのにとても時間がかかりました。	Writing Center というサポートシステムをよく利用していました。

ライティングセンターは何度も利用しました。レポートを書く際にどんなことでも質問できるのでとても役に立ちます。答えを教えてくれるのではなく「一緒に考えよう」というスタンスなので、文章力の向上にもつながります。

4. キャンパスライフ

■ キャンパスと街の様子

私立の大学ですが、他のアメリカの大学に比べて大きすぎず、道に迷うこともありません。建物は古いものも新しいものもあります。雰囲気はほのぼのとしていて、田舎が好きなお人にはぴったりです。図書館に荷物を置いて昼ごはんを食べに行っても誰も盗らないほど安全です。

大学を中心に町が形成されている感じで、町の中にダウンタウンはなく、メインストリートに全てのレストランや公共施設が並んでいます。一番近い少し大きな町までは車で 30～40 分ほど。おすすめスポットは「El Campo」というメキシカン料理のお店です。



キャンパスの風景(左:大学構内 右:Heterick 図書館)

最初の週は留学生だけのオリエンテーションで、とても良かったです。そこで友達もでき、海外での一人暮らしに関する不安が薄まりました。翌週には新入生とのオリエンテーションウィークがあり、いろいろなイベントが開催され、部活や学生団体が広場に集まって紹介をする催しもありました。ここで現地の学生と友達になりました。

■ 寮と食事

ルームメイトとは適度な距離感を保てていたと思います。お互いシャイであまり会話はしないのですが、たまに一緒にご飯を食べたり、映画を見たりしました。

食事はミールプランがあります。ジャンクフードや味の濃いものが多く栄養バランスは偏りがちで、とても美味しいというわけではありません。

■ 1 週間のスケジュール

区分	過ごし方
平日	起床 → 授業 1～2 個 → 食堂で昼食 → 授業 2～3 個 → 食堂で夕食 → 図書館に行ったり寮に戻ったりする自由時間 → 睡眠

休日	昼前に起床 → 食堂で昼食 → 勉強もしくは友人と会う → 食堂で夕食 → 自由時間 → 睡眠
----	---

■ 交友関係と息抜き

現地の学生では新入生と特に仲良くなりました。授業内のメンター制度のおかげで、同学部の先輩とのつながりもできます。留学中は他の国からの留学生とほとんど一緒にいて、毎日のご飯を一緒に食べ、週末にはどこかへ遊びに行き、寮生活なのでお互いの部屋に泊まることもよくありました。日本人の学生団体にも所属していて、深い関わりではないものの、日本語を話せる人が近くにいるのはとても心強かったです。

主な友人は留学生が多かったため、お互いの苦労や悩みを相談しながら協力し合えたと思います。現地の友人は全員新入生だったので、真夜中に呼ばれて寮で映画を見たり、ファストフード店に行ったりと、アメリカ人学生らしい経験を一緒にすることができました。

一番の思い出は、ほぼ毎日のように図書館に友達といたことです。ONUの図書館は3階建てで、1階は賑やかにしてもよい階、2階は小声での会話ならOK、3階は会話禁止というルールがあり、授業終わりには必ず1階か2階に行って、友達と勉強したり、おしゃべりしたり、たまに眠ったりするのが一番の思い出です。大変だったのは期末試験の勉強です。1日に複数科目の試験があることもあり、それぞれにどれだけ時間をかけるかを考えるのが大変でした。全て英語なので、他の学生の2倍3倍は勉強する必要があり、一番大変な思い出として残っています。

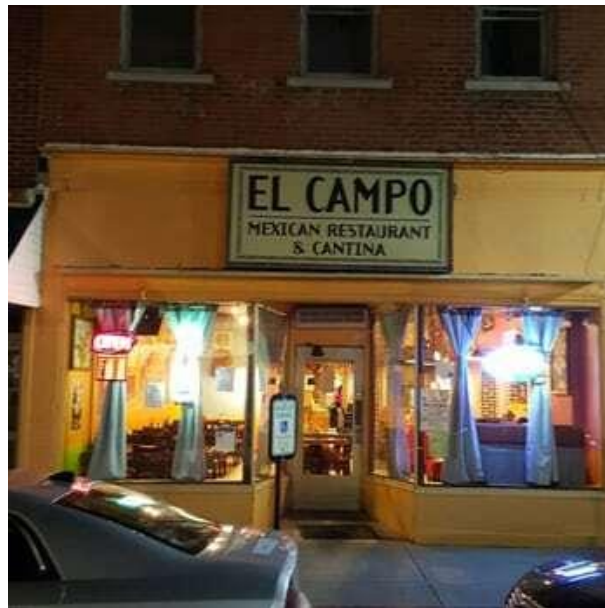
息抜きの方法は、友達と夜まで話したり、友達の部屋にお泊まりすることでした。日本の家族とは、母と平均週2～3回電話し、LINEはほぼ毎日していました。ノートパソコンは毎日のように使っていて、ないととても不便だと思います。

5. 課外活動と休日の過ごし方

日本人のコミュニティに所属していたので、そこが主催するイベントの手伝いなどをしました。スポーツはバドミントンクラブに所属し、週 1～2 回の練習で 2～3 時間いろいろな人と打ち合いができます。友人の運転でゴルフ場に行ったりもしました。

休み中は、大学の国際課が計画してくれる小旅行に参加したり、地元エイダの友人の家と一緒に料理をしたりして過ごしました。

おすすめのイベントは「Multicultural Fair」です。いろいろな国の文化を 1 日で知ることができるとてもためになるイベントで、自分の国の料理を外部のお客さんに振る舞ったり、国紹介のボードを作って自国の文化を説明したりすることができます。



おすすめスポットのメキシカン料理店「El Campo」

6. 持ち物と渡航前の準備

渡航前に準備しておけばよかったこと 留学先の授業 1 つあたりの合計授業時間数を知っておくべきです。自分の所属大学と異なると、単位を全て移行できない場合があります。

日本から持ってくればよかった物 医薬品、プチツと鍋のもと、取る予定の資格の参考書、お気に入りの美容製品。

到着後すぐに購入が必要だった物 ハンガー、ドライヤー。

持っていてよかった物・不要だった物 日本食やお箸、洗濯ネットは持っていてよかったです。生理用品は不要でした。

7. 留学を終えて

留学を通して身についたのは自己管理能力です。全てのことを自力でしなければいけないため、より自立することができたと思います。

とても田舎で派手に楽しめるような場所は全くありませんでしたが、今までの人生の中でも一番と言っていいほど楽しかったです。これからは、インターンや就職活動を頑張ります。

8. 後輩へのメッセージ

どの授業を受けるかは、事前に確認しておいた方が良いでしょう。授業の合計時間数が所属大学と異なると単位を全て移行できない場合があるので、渡航前にしっかり調べておきましょう。

9. 派遣先大学へのメッセージ

I really enjoyed the time in ONU and I will never forget about everything I did there. I will come sometime in the future.

■ JSAF のサポートについて

出発前オリエンテーションは役に立ったと感じています。海外に一人で行く上で心配していた保険や SIM についての説明を聞くことができ、とても役に立ちました。

JSAF 派遣生の最終留学レポートをもとに作成(保存用・氏名入り)。写真は本人提供。